

人間の育成と芸術モデル

L'élevage des humains et le modèle de l'art

2024/4/8 (Mon) 15:50-17:20

東京大学駒場キャンパス 18号館4階コラボレーションルーム1

University of Tokyo, Komaba Campus I (Build. 18, 4F, Collaboration room 1)

講演者：エリック・ミショー Eric Michaud (パリ社会科学高等研究院)

司会：松井 裕美 (東京大学)

ACTUALITÉS

84



— Madame! cela ne serait pas prudent. Retirez-vous!

概要：ダーウィンやニーチェ、ワイルドといった科学者・思想家・小説家は、人間の育成に大きな関心を抱いていた。ダーウィンにとって育成とは、家畜の「人為的」淘汰とは区別される自然淘汰説を洗練させるのに、有用な概念的道具だった。ニーチェは「超人」という概念を生み出すことで、真の育成ないしは淘汰は、何千年にもおよぶ「意識的な実験」の結果を得るために必要なものだった。オスカー・ワイルドは、人間の繁殖を向上させるための古代の視覚装置をモデルとして示しながら、芸術を手段として用いて人類を完璧な状態に導くことを求めた。

これら3人の思想家たちは、芸術が人間の育成において決定的な役割を果たすと考えていた。ダーウィンは18・19世紀のイギリスの養育者を例に挙げ、新古典主義をモデルとした。ニーチェは「実験的育成」すなわち芸術、この「人生におけるもっとも大きな刺激物」を、有機的機能と結びつけ推奨した。ワイルドは芸術家の作品が持つ模倣のエネルギーのおかげで、人間が育成されると考えた。この育成プロセスの中心にあるのは美であり、それこそが人類のかたちを変容させるもっとも力強い駆動力となってきたのである。

講演者について：パリ社会科学高等研究院学科長。芸術、プロパガンダ、人種概念に関心の中心を置き、19・20世紀の人体像について研究している。主著に、Théâtre au Bauhaus (L'Âge d'Homme 1978), Un art de l'éternité. L'image et le temps du national-socialisme (Gallimard, 1996, traductions espagnole et anglaise), Histoire de l'art : une discipline à ses frontières (Hazan, 2005), Fabriques de l'homme nouveau, de Léger à Mondrian (Carré, 1997), Les invasions barbares. Une généalogie de l'histoire de l'art (Gallimard, 2015, traductions espagnole, anglaise et portugaise au Brésil), La fin du salut par l'image et autres textes (« Champs », Flammarion, février 2020). 近刊予定の本として、La ruse de Jacob. Théories artistiques de l'élevage des humains (Gallimard).



主催：国際共同研究強化 (B) 22KK0002 (代表：寺田寅彦) / 東京大学芸術創造連携研究機構

言語：フランス語 (逐語通訳あり) / Langue: Français

問い合わせ：松井裕美 (hiromimatsui[a]g.ecc.u-tokyo.ac.jp) / 〒153-0041 東京都目黒区駒場 3-8-1